

明日へ、育てたいものがあります。



(財)日本給振興会の新しい呼び名です。

私たちは、

モーターボート競走の

売上の3.3%を財源として

ひろく社会のニーズに

応えるよう努力をしています。

きょうは、その事業の

一部を支援している

「海洋科学技術センター」の

活動をご紹介します。

# 海

海は、  
ちかごろ、  
おかしいぞ。

海と仲よく暮らしていくためには、海と真正面から向き合わないといけないんだ。

「海洋科学技術センター」では、環境汚染など海がかかえるさまざまな問題の解明を急ぎ、海とうまくつきあっていく方法を探っています。例えば、漁業や養殖の盛んな三重県と研究を進めている、沖合浮体式波力装置「マイティホエール」。これは、波の力を利用して沿岸海域の環境を改善する先進の装置です。汚染された荒波をのみ込んで浄化し、きれいで穏やかな波を送り出すというしくみ。もちろんこれは、センターが行っている事業のほんの一例。

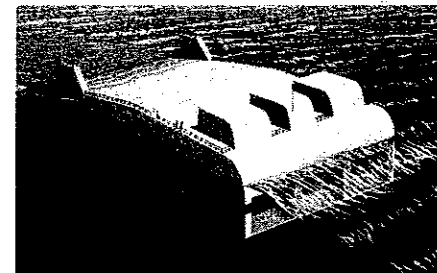
私たちにとってかけがえのない海とよい関係を遠い未来まで保っていく

ために、今、いろんな謎や問題に真正面から向き合っていく必要があります。海洋技術の研究・開発はもちろん、すべての人々がもっと興味や関心を持つことこそ、海と仲よく暮らしていく最良の方法を見つける近道となるのです。

あなたも参加しませんか。

日本財団では、青少年層を中心に広く一般に海に対する関心を高めてもらうことを狙いとして、海洋科学技術センターの事業を支援しています。今年から実施している「マリンサイエンススクール」は、高校生と研究者・技術者との対話や海洋実習を通じて地球環境・資源問題を考えてもらおうとするものです。お問い合わせは、海洋科学技術センター ☎0468-67-5533まで

21世紀に向けて期待されている、海の新技術です。



イラストは、平成9年度完成予定で建造が進む沖合浮体式波力装置「マイティホエール」(全長50m、幅30m)。平成10年より三重県五ヶ所湾での実験開始が予定されています。